表 1 「生徒の姿チェックシート」と表 2 「授業改善の手立て」の使い方

- ① 新しい単元に入る前に、表 1 「生徒の姿チェックシート」を用いて、現在自分が指導している学級の生徒の様子を把握してみましょう。

今回の単元では、第一次（導入）の段階で、生徒が積極的に学ぼうとする姿があまり見られなかった。教材に興味を持っていないのだろうか…。次の単元に入る前に、改善策を考えよう。まず、生徒の姿をチェックすると……。

過程	生徒の望ましい姿	チェック	授業改善の手立て
第一次 (導入)	ア 学習内容に関心を示し、意欲的に学ぼうとしている。	☐	A①⑤ C①
	イ ゴールのイメージを持って学習に向かおうとしている。	☐	A②③④
	ウ 自分なりの問いを持って学習しようとしている	☐	A⑤ C②
	エ 話し合い活動に意欲を持って参加しようとしている。	☒	B①②③
	オ 他者とのコミュニケーションを取りながら、学習に向かおうとしている。	☒	B②④

表 1 「生徒の姿チェックシート」では、項目ア、イ、ウにチェックが付かなかった。この生徒の実態に対して、どのような授業改善の手立てが取れるだろうか？

過程	生徒の望ましい姿	チェック	授業改善の手立て
第一次 (導入)	ア 学習内容に関心を示し、意欲的に学ぼうとしている。	☐	A①⑤ C①
	イ ゴールのイメージを持って学習に向かおうとしている。	☐	A②③④
	ウ 自分なりの問いを持って学習しようとしている	☐	A⑤ C②
	エ 話し合い活動に意欲を持って参加しようとしている。	☒	B①②③
	オ 他者とのコミュニケーションを取りながら、学習に向かおうとしている。	☒	B②④

- ② 表 1 「生徒の姿チェックシート」の「授業改善の手立て」の欄に示されている記号・番号（A①など）を参考にしながら、表 2 「授業改善の手立てシート」に示されているような指導を行っているかを振り返り、自らの授業の課題を把握しましょう。

表 1 「生徒の姿チェックシート」によると、項目ア、イ、ウに対して、A①②③④⑤ C①②の手立てが考えられるようだ。表 2 「授業改善の手立て」で、具体的な内容を見てみよう。

過程	A 主体的な学び	B 対話的な学び	C 深い学び
第一次 (導入)	①興味・関心を持って取り組めるように、単元の魅力を語る。 ②学習の目的(身に付けさせたい資質・能力)が生活に役立つことを明示する。 ③モデルを示すことで、学習のゴールを具体的に見せる。 ④学習計画を示し、学習の見通しを持たせる。 ⑤学校図書館やインターネットから多様な情報を収集させたり提示したりして、自分の問いを持たせるための動機付けをする。	①答えが複数あるなど、単純に答えることができず、集団で解決する必然性のある課題を設定する。 ②個人の問いを共有させる。 ③課題に対する予想と解決方法を話し合う場を設定する。 ④話し合いのルールを明示し、確認させる。	①少し難しい課題を設定する。 ②提示した問いの中から、自分に合った問いを選ばせる。

表 2 「授業改善の手立て」の中の手立てのうち、A①②③⑤、C①は今回の単元に取り入れていなかった。つまり、これが現在の自分の課題ということだ。

- ③ 表 2 「授業改善の手立てシート」に示されている手立てを参考にしながら、課題を解決するために取り入れてみたいと思う手立てを検討して、決めましょう。

A④とC②は、今までどおりに継続していこう。A⑤は、次の単元で取り入れることはできそうにないから、今回は見送ることにしよう。それでは、次の単元では、「A④、C②」に加えて、「A①②③、C①」を新たに取り入れて授業を組み立ててみよう！

- ④ 決定した手立てを、新しい単元に取り入れて、単元を構想し、新たな授業実践を行いましょう。